

AWRスナップショットの採取頻度の設定

AWRスナップショットの明示的収集のための手動コマンド

AWR は、Oracle Database **Enterprise** Edition をインストールすると、自動的に導入される

なお、Standard Edition、Standard Edition One には追加できない（追加オプションの購入ではない）

AWR スナップショットの自動取得のための設定

- ・ 自動取得を行うかを決定するための初期化パラメータ設定

`statistics_level = TYPICAL or ALL`

設定例)

```
ALTER SYSTEM SET statistics_level = 'ALL' SCOPE = MEMORY  
sid= '*';  
sid= '<対象データベースとなる Oracle_SID>'
```

※ 対象のデータベースは、コンテナ・データベースを含めたすべてのデータベースにする必要がある

- ・ AWR スナップショットの自動収集間隔

60分（デフォルト設定値）

- ・ 収集間隔頻度の変更

`DBMS_WORKLOAD_REPOSITORY.MODIFY_SNAPSHOT_SETTINGS`

により変更可能

`execute`

```
DBMS_WORKLOAD_REPOSITORY.MODIFY_SNAPSHOT_SETTINGS  
( <保存期間（分）>, <収集時間間隔（分）> );
```

使用例)

execute

```
DBMS_WORKLOAD_REPOSITORY.MODIFY_SNAPSHOT_SETTINGS  
( 60*24*8 , 45 );
```

AWR スナップショットの手動取得方法

Oracle 11g

```
execute DBMS_WORKLOAD_REPOSITORY.CREATE_SNAPSHOT( );
```

Oracle 12c

【注意事項】

このコマンドは、コンテナ・データベースへ SYS ユーザーで SYSDBA 権限接続して実行する必要がある

プラガブル・データベースで実行した場合や SYSTEM ユーザーで接続して実行した場合には、コマンド自体は「PL/SQL プロシージャが正常に完了しました」と表示されるが、AWR スナップショットは出来ない

```
execute DBMS_WORKLOAD_REPOSITORY.CREATE_SNAPSHOT
        ('<スナップショット採取レベル>') ;
```

スナップショット採取レベル

BESTFIT	最小限の項目のみを対象	
LITE	重要な項目のみを対象	
TYPICAL	代表的な項目のみを対象	(レベル 1)
	指定なしの時のデフォルト値	
ALL	全部の項目を対象	(レベル 2)

取得した AWR の一覧表示

```
select dbid , end_interval_time , snap_id , snap_flag , snap_level
from DBA_HIST_SNAPSHOT
order by end_interval_time ;
```

DBID	END_INTERVAL_TIME	SNAP_ID	SNAP_FLAG
1469414445	18-07-14 13:30:06.832	323	0
1469414445	18-07-14 16:28:48.761	324	1

AWR スナップショットの手動削除

【注意事項】

このコマンドは、コンテナ・データベースへSYS ユーザーで SYSDBA 権限接続して実行する必要がある

```
begin
  DBMS_WORKLOAD_REPOSITORY.DROP_SNAPSHOT_RANGE(
    low_snap_id => <削除対象のスナップショット開始番号>,
    high_snap_id => <削除対象のスナップショット終了番号>,
    dbid        => <DBID>);
end;
/
```